



総務省によると、今年1月1日現在の日本人の総人口は1億2520万9603人（前年比0.30%減）となり、9年連続で減少。少子高齢化が進んでおり、人材の確保は厳しくなる一方だ。高齢化が著しい物流業界でも世代交代が課題となるが、若年層を取り込むのは容易ではない。若い世代から、物流業界が就職先として選ばれるためにはまず、若い世代の思考を理解する必要がある。文教大学（近藤研至学長、埼玉県越谷市）の学生4人に、「物流業界への就職」をテーマに話を聞いた。（三村秀寿）

文教大学の3年生4人が回答

話を聞いた学生は、情報学部情報社会学科の工藤佑太郎さん、同学部メディア表現学科の吉田朋己さん、及川夏季さん、尾形実優さんの4人。全員が3年生で、就職活動を控えている。

まずは、物流業界の仕事とはどういうものかという質問をしたところ、4人とも「トラックの運転」と「倉庫での整理作業」の2つしか思い浮かばないという。この質問は、他の大学でも行ったことがあるが、全く同じところ、4人は回答なかった。結果的には、物流業界がどのような仕事をしているのか、彼らの世代には知られていないということがわ

「仕事内容が分からない」「働く自分想像できない」

その事実を踏まえた上で、物流業界での就職を考えたいというか、または、就職先の候補になりうるかという質問を

とがあるが、全く同じところ、4人は回答なかった。結果的には、物流業界がどのような仕事をしているのか、彼らの世代には知られていないということがわ

「仕事内容が分からない」「働く自分想像できない」

とがあるが、全く同じところ、4人は回答なかった。結果的には、物流業界がどのような仕事をしているのか、彼らの世代には知られていないということがわ

「仕事内容が分からない」「働く自分想像できない」

とがあるが、全く同じところ、4人は回答なかった。結果的には、物流業界がどのような仕事をしているのか、彼らの世代には知られていないということがわ

「仕事内容が分からない」「働く自分想像できない」

とがあるが、全く同じところ、4人は回答なかった。結果的には、物流業界がどのような仕事をしているのか、彼らの世代には知られていないということがわ

もっと業界のPR・イメージアップ必要